

## 知っておきたい 冠婚葬祭の 服装マナー



**最**近は日常生活のあらゆることが簡略化され、昔からのしきたりをとやかくいわなくなったとはいえ、冠婚葬祭は別。それ相応の身だしなみが求められます。ここでは慶事、弔事のこれだけは知っておきたい基本的な服装のマナーについてご紹介します。

最初に葬儀と告別式の参列者マナーです。

男性の場合、最も正式な喪服はモーニングですが、通常は喪主、親族、近親者のみが着用。参列者は略礼服（シングルでもダブルでもよい）が基本です。できれば、冬物はダブルのものを、あひものはシングルで揃えておくとよいでしょう。

お求めの際は、普段より横幅が一回り上のサイズ（AB体5の人はB体5）を。一回り上でも、長め（A5→A6）のサイズは控えましょう。各メーカーとも、略礼服のサイズは標準サイズより小さめの傾向があり、略礼服は流行にとらわれることなく、サイズの変更以外で、買い替えの必要性がないためです。

ネクタイは、無地かジャガード織りの黒。ポケットチーフは白のコットンハンカチーフ（付けなくてもよい）。Yシャツは白無地。靴や靴下など小物はすべて黒。エナメル靴はタブー。帽子もご法度です。金ボタンの付いた黒ブレザーや、ダークなものでも、上下の色が違うものは避けましょう。

女性の場合、四季を通して長袖が原則ですが、パンツスーツでも問題はありません。重なりを嫌うため、アクセサリは二連を避け、結婚指輪以外の指輪は外してください。時計も外してバッグの中に。遺族より格式の高い喪服は避けるなど、細やかな注意が必要です。

次に慶事についてです。

男性の場合、披露宴にふさわしい装いといえば、原則は正礼装ですが、親族や主賓以外の招待客は略礼服が一般的です。黒にこだわる必要はありませんが、心がけたいのは新郎新婦よりやや控えめに装うこと。靴は黒のプレーンなもの。白のシルクのポケットチーフでおしゃれな雰囲気 연출 することができます。

あくまでも、目立つ服装は控えること。洋装の場合は昼と夜、女性の和装には、未婚か既婚かで決まりがあるので気をつけましょう。夫婦で出かけるときは、お互いの装いのバランスを考えることも大切なこと。招待状に「平服で」とあっても、「普段着で」という意味ではありません。カジュアルな服装は、服装の基本がしっかり理解できていることが肝心です。

女性の場合、明るい色調のものは構いませんが、基本的に白は花嫁の色。白を基調とした装いは避けましょう。アクセサリは洋服より格の高いもの、靴はヒールのあるものを。爬虫類のバッグや靴は、殺生を意味するため身につけないことです。